

公益財団法人日米医学医療交流財団 留学助成

研修報告書 (2025年度 助成者)

作成日 2025年 8月 12日

氏名 (フリガナ)	平田 翔 (ヒラタ ショウ)
研修先機関名	Hawaii Tokai International College
研修期間	2025年8月4日(月)～8月9日(土)
大学名 学年	岩手医科大学 5学年

この度、医学部夏期集中医学英語研修助成の機会をいただきましたことを深く感謝申し上げます。学んだことのないアメリカ式のケースプレゼンテーションの仕方を、実践を通して学ぶことができ、アメリカで医師として働くにあたって自分に何がどのくらい足りないのかがよく分かりました。また、現地の先生方やJABSOMの学生と交流し、コネクションを持てたことも大変貴重な経験だったと感じております。

初日は、事前にLINEで連絡を取り合っていたメンバーで空港からUberでHTICに向い、寮にチェックインして様々な説明やレクチャーを聞き、先生やメンバー同士の自己紹介並びにアイスブレイクが行われました。初日でしたが、みんなでスーパーに買い出しに出かけたり、レストランで食事をしたりしました。

2日目は、ケースプレゼンテーションのやり方に関する講義を受けた後、JABSOMの生徒を相手に病歴聴取を行い、これを先生にプレゼンするという実践をしました。この日は、この5日間で最も長い約5時間の休み時間があったので、みんなで昼食を摂った後、ワイキキビーチまで行き、シュノーケリングをしてきました。

3日目は、小林恵一先生の開業なさっているSt.Lukes Clinicを見学させていただきました。この後は、レンタサイクルポートでレンタルした自転車でワイキキビーチまで行き、海に少しだけ入りました。少し街中を自転車で散策してから、JABSOMへ行き、午後は町Junji先生の講義の後は、前日同様、ケースプレゼンテーションの実践練習を行いました。

4日目は、午前は与えられた症例から鑑別診断に至る過程を学生同士で、英語でディスカッションしました。午後は、Naoto Ueno先生とTeresa Schiff先生の講義を聞き、JABSOMのキャンパスツアーがありました。その後は最後のケースプレゼンテーションの実践練習を行いました。

5日目は、Kathryn Shon先生による今回のワークショップのまとめ、Kentaro Takagaki先生、Hidenori Maki先生、Robert Jao先生による講義、セレモニーとレセプション(風邪をひいて参加できませんでした)が行われました。

このプログラムへの応募にあたって、初めはケースプレゼンテーションの練習ならわざわざハワイでやらなくても日本で出来るのではないかという疑問がありましたが、ハワイでしか出会えない先生方との交流があり、現地で生活してみて海外で医師になることに自分が合っているかというイメージを膨らませることができ、そして、同じ目標を持つ同じ国から来た同学年の医学生が異国の地で協力して生活することによる仲間意識を育み、今後に繋がる関係性を築けた今では、本当にハワイでの本プログラムに参加できてよかったですと心から感じています。現に、本プログラムで学んだケースプレゼンテーションをもっと練習したいという声を上げた学生もおり、興味のある仲間でオンラインまたは対面で、日本でもまたケースプレゼンテーションの練習を行うことが決まりました。私も参加するつもりです。今後とも、海外で医師になりたいという夢に向かって、と医学知識と英語力の向上に努めてまいります。

改めまして、この度は医学部夏期集中医学英語研修助成の機会をいただき、掛け替えのない学びをさせていただいたことを深くお礼申し上げます。